

目次:

「じこてん」の学
べる大学ニュース
内部質保証 1

評価委員の声
学内実地視察
と評価結果 2

自己点検から
計画的改善へ 2

じこてんちゃん
活動記 3

①研究評価活動
ヒアリング

②大学基準協会
シンポジウム

③中央大学との
意見交換

じこてん日記
編集後記 4

内部質保証システムって何？

～方針の「明確化」とその恒常的な「見直し」～

2011年度から大学基準協会では、大学の自律的改善をより一層支援するため、「内部質保証システム」を重視した、新しい基準に基づく評価を始めました(第3号参照)。内部質保証システムって…? 『「じこてん」の学べる大学ニュース』, 第1回IRに続く, 第2弾は, 内部質保証です!

ー システム?? ー

大学基準協会は「内部質保証システム」について、①方針や計画を明確にし、②その実現に向けて努力し、③適切な自己点検・評価の結果から、④方針や計画に修正を加え(つまり次年度計画です)、⑤着実に質の向上を図る“仕組み”があること、と説明しています(『「大学評価」ハンドブック(2012年度)』7頁を“じこてん”に要約)。

システムという言葉でイメージが湧かなければ、仕組み、制度等と読み替えてみましょう。仕組み、制度であれば、当然これらを管理する、決まりごと(規定やガイドライン)、責任主体(委員会)、業務スケジュール等が必要になります。

ー 方針?? ー

「方針」にも似たような言葉があつて、わかりにくいですね。最近では、3つの方針(*)が法令化されたり、本学では、伝統的に「学長方針(教育研究年度計画書の作成にあたって)」という文書に従つて、教学マネジメントが動いていますので、この仕組みに「方針」を理解するヒントがあるかも知れません。方針とは、その方針に従つて何かを決めたり、動かしたりする基になるもの。建学の精神や教育理念と異なり、明確に方向付けされ、“次に何をするのか”誰もが共通して理解できるものです。例えば、10人の皆さんに「権利自由」のために活動してください、とお願いしたら、10種類の活動が生まれるでしょう。権利自由は、建学の精神であり、方針とは言えません。

ー 明確化?? ー

では、大学にはどのような方針が必要なのでしょう。大学評価においては、カリキュラムの見直し方針、開講科目の決定方針、新規教員の任用方針、休学・退学者への対応方針等々、教育研究

や修学支援等における様々な意思決定に、その根拠となる方針が必要になります。

ただし、本学ではこれまでも、「方針」としては明文化されていない面があつたにしても、理事長名・学長名の文書や、理事会・教授会の審議等において、何らかの基準によってこれらを決定してきた事実があります。今回の内部質保証システムでは、新たに方針を策定するよりも、慣習化されたもの、明示的でなかったもの、暗黙知のように継承されてきた方針類を「明確化」していく作業になるのかも知れません。

ー 見直し?? ー

内部質保証システムは「方針の明確化」と共に「見直し(検証)」もキーワードです。自ら立てた方針を「達成したのかどうか」との視点で、達成した理由、達成しなかった理由を分析し、次期の方針や計画を見直し、よりよい学習環境を提供できるよう、大学をステップアップしていく役割を担うのです。

そのために方針を検証する仕組み(規定、責任主体、検証文書等)が必須です。繰り返になりますが、自己点検・評価は、内部質保証システムの一部であり、年度計画や予算案の策定(P)、教育研究活動の実施(D)、実施結果の分析(C)からの計画の見直しと実行(A)まで、一連の活動が内部質保証システムと言えます。

理事会、各教授会をはじめ、教務部委員会や学生部委員会、全学的な機構やセンター等でも、目指すべき方針が明示されているか、見直し体制を説明できるか、“じこてん”してみましょ。内部質保証システムとは、よりよい学習や研究のために適切な予算や人材を確保し、明治を発展させる土台であり、「世界へ」の明治を実現するための仕組みなのです。

これまで、やってきたことなんだよね。内部質保証でステップアップしよう!



(*)3つの方針

①学位授与方針、②教育課程編成・実施方針、③入学者の受入れ方針

評価委員会の声！～学内実地視察と評価結果

評価委員会…何か厳しそうな名称の委員会ですね。しかし、この委員会は、査定やチェックをする委員会ではなく、明大の将来をディスカッションする委員会なのです。

この委員会は、明治大学の自己点検・評価を構成する3つの委員会(各学部等自己点検・評価委員会、学長が委員長となる全学委員会、理事長が委員長となる評価委員会)の1つで、自己点検・評価報告書が完成した後、報告書に示された課題の中から、全学的に重要な改善方針を絞り込み、その検討結果を「評価結果」として公表するものです。

委員は23名で、理事会のメンバー、学長・学部長等の教学のメンバー、そして法人にも教学にも属さない外部有識者の三者によって構成されています。外部有識者は7名で、企業や学校法人の経営者、弁護士等として社会で活躍し、教育や本学の状況を第三者的に把握されている方々です。

普段は役割分担して別々に審議している法人、教学のメンバーが一堂に集い、さらに社会の視点も加えて、次年度の本学の改善方針を語り合い、共有する、貴重な機会です。本学創立者たちの「同心協力」の精神を具現化した場とも言えましょう。

2009年度報告書に対する評価委員会は、2011年2月2日に開催されましたが、開催に先立ち、外部有識者の方々には、学内実地調査・ヒアリングを行っていただきました。生田キャンパスの植物工場基盤技術研究セン

ターや地域産学連携研究センター予定地等の研究施設の状況、和泉キャンパスでは和泉インターナショナルハウス等の国際交流の状況、また駿河台キャンパスでは中野新キャンパス構想のヒアリングを行いました。その後の委員会では、国際化を推進するための課題や、大学院教育の支援策、施設の長中期計画等が話題となり、外部有識者のコメントを中心に、理事会メンバー、教学メンバーで意見交換が行われ、本学の改革方針、重点施策の絞り込みが行われました。この検討結果は「評価委員会による評価結果」としてHPで公開しており、自己点検・評価規程第17条に基づき、理事長、学長はそれぞれの担当分野で、次年度計画等の施策に反映させることとなります。

今回は、7項目の改善方針が示されました。これら方針は学長方針に取り込まれ、各学部等の年度計画で具体化されると共に、法人事業計画でも具体化されていると思いますが、予算要求のこの時期、今一度、見返してみたいかがでしょうか。

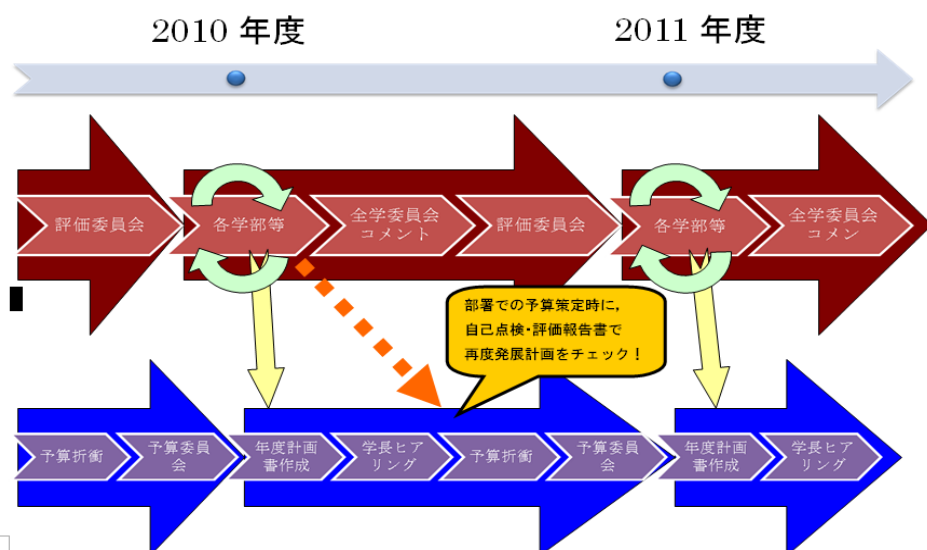


◆じこてんちゃんのつぶやき◆
 評価委員会って、みんなで明大を良くしていこう！って、考える場のね。どんな話し合いがされて、どんな改善方針が示されたのか、早速ホームページを見てみよう！



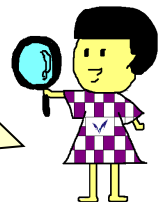
自己点検・評価から、計画的な改善へ！！

～2012年度「年度計画書・予算」と2010年度「じこてん報告書」～



これから予算の時期になります。「じこてん」は、予算要求や政策提案の根拠としても活用できます。「じこてん」の改善方針を見返すと、“何を”“どの程度”提案すればよいのか、よく理解できると思います。実績を数値で把握しておく、提案の説得力がより一層増すでしょう。

上の矢印は自己点検・評価の流れ、下の矢印は予算策定の流れだよ。



研究評価活動のヒアリングを受けました！

2010年11月24日、文部科学省科学技術・学術政策局評価推進室からヒアリングを受けました。科学？、学術？ ……じこてんちゃんも困惑する見慣れない来訪者でしたが、政府では、2001年に「国の研究開発評価に関する大綱的指針」(内閣総理大臣決定)を示し、文部科学省が研究開発評価の基本的な考え方をガイドラインとしてまとめているとのこと。研究機関や大学は、各機関の特性や実情を踏まえて、研究開発評価活動の充実を図ることが求められ、その評価方法について、2004年から研究開発評価活動の事例調査を行っており、このたび本学の事例をヒアリングしたいとの趣旨でした。

本学からは坂本研究担当副学長、外池学長室専門員、また小沢研究知財事務長と、教学企画事務室から山本と石井が出席しました。ヒアリングでは、研究の目標・計画、戦略の策定及びその推進、分析・評価に関するマネジメント体制や、研究評価と大学評価の体制・プロセスについて意見交換しました。

ヒアリングを担当された研究開発評価推進検討会委員の三隅先生(防災科学技術研究所)と篤田先生(茨城大学)からは、詳細なる自己点検・評価報告書による緻密な現状分析によって戦略が練られていること、わかりやすい研究年報によって研究活動が可視化されていること等が評価されました。

そして、本命のヒアリング項目である「評価における工夫」では、このニューズレター「じこてん」も登場！学内広報のニューズレターも充実しており、「何のために評価をやっているのか」など評価の意義について多くの構成員に伝えようとしている点、また、なるべく多くの構成員が評価にたずさわるように心掛け、効率的な評価書の作成方法等のノウハウについてもニューズレターで紹介している点、構成員全体に対して評価を使ってもう1歩上に向かうという評価文化を着々と進めている点等が優れているとのコメントがありました。「研究開発評価活動の実例集」(平成22年度)は、近日中に文科省ホームページにて公開されますので、ぜひご覧ください。

いろいろな評価があるのね。



中央大学 大学評価推進課 との意見交換

～「客観的」な評価について議論～

2011年2月24日(木)、中央大学多摩キャンパスの大学評価推進課に、外池学長室専門員と教学企画事務室から山本、松永で訪問。自己点検・評価マネジメントシステムや大学評価の取り組み状況に関する意見交換を行いました。中央大学からは、学事部大学評価推進課の渡邊さん、石井さんがご対応くださいました。

中央大学では、自己点検・評価を実施するために2008年より「経営評価指標データベース」を導入し、全学で共通した数値での点検・評価が始まりました。また2010年には「自己点検・評価マネジメントシステム」に切り替え、より充実させています。システムの機能としては、①大学基礎データなどのデータ収集・管理、②評価の視点ごとの指標閲覧、③学内資料の掲載・閲覧などがあり、自己点検・評価に係るエビデンスを蓄積し、学内の情報共有・活用を促進するために役立っているとのことでした。

大学評価の取り組み状況については、評価担当副学長の下、大学評価推進課の専任職員3名体制で、毎年行う自己点検・評価と改善活動を推進しています。評価項目は大学基準協会の認証評価項目をベースに、中央大学独自項目が設定され、特色の伸長を図っています。客観的な評価が進む一方で、他大学との比較や、ベンチマークの作成、教育の中身のデータの集め方など、残された課題は本学と共通するものもありました。

本学では認証評価結果で指摘を受けた事項について「改善アクションプラン」にて、参考指標を設け、年度単位で改善を実践いただきましたが、各大学では、さまざまな形で数値を活用した改善を進めているようです。

中央大学の大学評価推進課の皆さんの、大学改革への熱い思いに、思わず胸がキュンとなるじこてんちゃんなのでした。

大学基準協会 国際シンポジウムに参加

2011年1月12日、内部質保証という新しい評価基軸の理解を深めるため、基準協会評価委員対象に開催された「新たな大学評価の理念 ー内部質保証システムをいかに評価するかー」に参加しました。

米国に6つある地区基準協会の1つNEASC(ニューイングランド地区大学基準協会)のPatricia M O'Brien氏の講演“Accreditation Visits: Assessing and Improving Quality through Peer Review”で語られた、“大学の理念実現のために自律的な改善を支援する内部質保証というシステム”という報告に、じこてんちゃんも興味深々。米国の大学運営を実際に見てみたい！と思うのでした。(次号に続く…)

①自己点検・評価 「評価委員会」の開催

「2009年度自己点検・評価報告書」を、1月12日に自己点検・評価委員会委員長(学長)から、同評価委員会委員長(理事長)へ提出しました。提出をうけ、2月2日に評価委員会を開催し、法人、教学の役職者、外部有識者の三者で、本学の課題を共有、次年度に向けた改善方針を策定しました。2009年度自己点検・評価報告書をホームページにて公開しました。

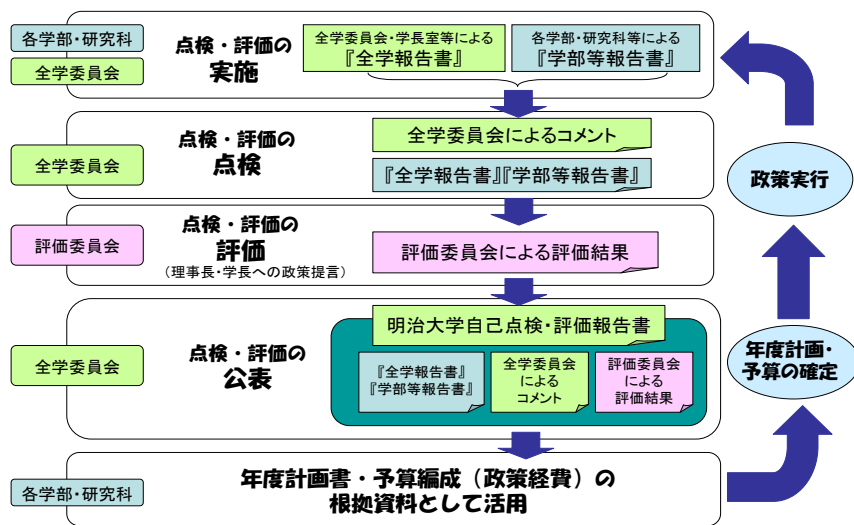
③全学委員会、「改善報告書」、「2010年度報告書原案」承認

7月27日(水)に開催。2007年度認証評価で基準協会から「助言」を付された事項に対する「改善報告書」を審議承認し、基準協会へ提出しました。また2010年度報告書(案)は、現在各部門にコメントに基づく見直しを依頼中です。ご協力をお願いします。

②自己点検・評価実務担当者説明会を開催

5月23日(金)に「2010年年度自己点検・評価報告書」作成の実務担当者説明会を開催。80名を超える皆さんに参加いただきました。震災の影響で例年より2か月遅れでのスタートです。本年は、大学基準協会の新しい認証評価についての説明に加え、法令順守という評価の基本視点や、方針と実績の差を確認するという評価の基礎知識等についての研修も実施しました。

明治大学の自己点検・評価プロセス



編集後記

今号は、本来皆さんがじこてんを開始する頃に発行予定であったところ、発行が遅れましたこととお詫び申し上げます。この間、基準協会の新しい方針も徐々に明らかとなり、本学の優れた点、足りない点も分かってきました。社会情勢や学習環境、学生気質の変化を素早くキャッチし、社会や学生さんの成長に役立つじこてん…。じこてんちゃんも一生懸命、勉強中です。次号以降、少しずつその仕組みをお知らせします。

創刊第5号を記念!
「じこてんちゃん」の書き方をおさらいしましょう。



簡単だから
覚えてみてね



じこてん 第5号

2011年10月31日発行

明治大学 教学企画部 教学企画事務室
編集担当：外池 力(学長室専門員)、山本 幸一、松永 基希

東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台キャンパス 大学会館8階

電話：03(3296)4271

FAX：03(3296)4353

Email: hyouka@mics.meiji.ac.jp

URL: <http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/>

ほくも宜しく



じこてんくん

